

令和6年度  
地域まちづくり活動助成金  
活動成果概要



令和7年5月  
東大阪市 市民生活部  
地域活動支援室



## 目次

『地域まちづくり活動助成金』の概要 .....	1
交 付 事 業 一 覧 .....	2
活 動 成 果 概 要 .....	3 - 5 4

※総事業費は提出した段階の金額であり、最終確定額と若干異なる場合があります。

## 『地域まちづくり活動助成金』の概要

地域まちづくり活動助成金制度は、東大阪市の地域資源の活用や地域課題の解決に向けたまちづくり活動の活性化を図り、わがまちとして愛着と誇りの持てる市民主体の魅力ある地域づくりを目的としています。

スタート支援部門	立ち上げて5年未満の団体が、活動基盤を整えたり、新たな事業を始めたりするのを支援する助成金。
事業チャレンジ部門	団体が、将来に亘って自立・継続して活動するための事業への助成金。

### ○選考方法

スタート支援部門	書類と面接
事業チャレンジ部門	書類と公開プレゼンテーション

いずれも「東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会」において採択団体や助成金額などを審査します。

### ○審査基準

- ・事業の公益性 ・事業の実現性 ・事業の創意工夫・先駆性
- ・事業の発展性 ・組織の健全性 ・他団体、企業、行政機関などとの協働性

## 令和6年度東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員

令和6年度は、下記の審査委員により審査を行いました。

	氏名	選出団体及び役職
会長	吉田 忠彦	近畿大学 経営学部 教授
副会長	有田 典代	国際文化交流協会 事務局長
	田中 晃代	近畿大学 総合社会学部 教授
	藤江 徹	あおぞら財団（公益財団法人公害地域再生センター）事務局長
	大辻 雅稔	東大阪市 市民生活部 地域活動支援室長

## 令和6年度 交付事業一覧

	申請区分	団体名	申請事業名	ページ番号
1	スタート支援	特定非営利活動法人音頭座がらく	新しい形の祭り・盆踊りイベント提案プロジェクト～地域交流機会の創出と活性化～	3
2	スタート支援	ひだまり	ひだまり	5
3	スタート支援	ダブルケア東大阪	ダブルケア当事者の居場所づくり事業2024	7
4	スタート支援	～ほ～むべ～す～	子育てと教育・地域社会について考える、映画上映会	9
5	スタート支援	東大阪ベタンククラブ	ベタンク&フランス文化体験会 ～健康促進と多様性のコミュニティづくり、フランス言語・文化と触れ合い世界の多様性を学ぶ～	11
6	スタート支援	Fun Wellbe	ママの心と身体の健康促進	13
7	スタート支援	東大阪「通いの場」連絡会	東大阪市内の各種「通いの場」ネットワークづくり事業	15
8	スタート支援	おもちゃとあそびtocotoco	おもちゃの広場	17
9	スタート支援	東大阪市ジャズ協会	東大阪市に独自の芸術文化を形成するための事業	19
10	スタート支援	フリースクールテント	不登校・起立性調節障がい 子と親のフリースクールテント東大阪校	21
11	スタート支援	ブックキャラバン事務局	第2回 ブックキャラバン	23
12	スタート支援	トーキョーコーヒー東大阪	子ども達の学校に行かないというアクションから考える ー子どもの人権を尊重し、今の時代に合った教育とはー	25
13	スタート支援	EN	地域全員顔見知り(ご縁づくり)事業	27
14	スタート支援	よりみち	なんでもはなしてみよう会	29
15	スタート支援	子どもも教員も育つまち東大阪	教員志望大学生の研修及び個別サポート事業	31
16	スタート支援	東大阪市障害者文化スポーツ大会	東大阪市障害者文化スポーツ大会	33
17	スタート支援	ひのもと	地域でつながる、ひのもと子宝マルシェ ～歴史、文化、伝統を学び、子供たちが主体となり地域で学び合う場づくり～	35
18	スタート支援	弥生公園地藏尊盆踊り実行委員会	弥生公園地藏尊盆踊りこころのふれあい事業	37
19	スタート支援	多文化共生サポート「結」	多文化共生社会を私の町にも！ やさしい日本語での情報発信と地域交流事業	39
20	スタート支援	E135°	東大阪居場所作りカフェ	41
21	スタート支援	ちいさなて	まなVIVA!プレーパーク～遊びの中に福祉と防災を～	43
22	スタート支援	SOTTO	子育て支援	45
23	スタート支援	ゆうてみて	傾聴	47
24	スタート支援	弥刀もりあげ隊	トライアルしやすい商店街プロジェクト	49
25	事業チャレンジ	やどり木	子どもの居場所づくり ～孤育てを防ぎ地域とつなぐ～	51
26	事業チャレンジ	特定非営利活動法人多言語・多文化サポートICHI	体験・対話・研修で考える東大阪市の多文化社会 ー共に学び、共に暮らす地域社会をつくるー	53

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	新しい形の祭り・盆踊りイベント提案プロジェクト～地域交流機会の創出と活性化～		
団体名	特定非営利活動法人音頭座がらく		
助成区分	スタート支援部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input checked="" type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000円	総事業費	720,202円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>各地域の自治会等が主催する祭りや盆踊りは、地域の役員の高齢化と後継者不足や準備・運営に係る人手不足等の問題で開催を断念するところが増えており、地域での人々の交流の場がなくなると共に伝統芸能の衰退が危惧される状況である。</p> <p>令和4年度・5年度で実施してきた事業のまとめとして、日本各地の郷土芸能や民謡が一堂に会するイベントの企画・構成・運営までをパッケージ化した提案を行い、各地域での開催に繋げて地域住民の交流を深める機会の維持・拡大を目指す。</p>		
2. 事業の内容	<p>河内音頭をはじめとする伝統芸能・文化の伝承と活性化を目的に、世代やジャンルを問わず様々な交流や情報をインターネットラジオ等により幅広く発信すると共に、河内音頭の練習生・研修生の募集と河内音頭講習会を4回開催。また、日本各地の郷土芸能や民謡が一堂に会する提案イベント（企画・設営・運営までをパッケージ化）では、世代やジャンルをこえた来場者が楽しめる空間と時間の共有を実現。</p>		
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	<input checked="" type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	②実施場所はよかったか	1	・ <input checked="" type="checkbox"/> 2 ・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	・ <input checked="" type="checkbox"/> 2 ・ 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input checked="" type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	・ <input checked="" type="checkbox"/> 2 ・ 3
	⑦広報はよかったか	1	・ <input checked="" type="checkbox"/> 2 ・ 3
	⑧予算は妥当だったか	1	・ <input checked="" type="checkbox"/> 2 ・ 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	<p>・河内音頭講習会について、第3回目から会場変更を余儀なくされ、会場キャパの問題で参加者募集等のPRが限定的にならざるを得なかった。</p> <p>・新しい形の盆踊り提案イベントでは、出演者調整に時間を要し、事前告知等の広報活動が予定より遅れてしまったが、日本の郷土音楽・芸能が一堂に会するイベントということで、これまでと違った新しい客層を含め世代やジャンルをこえた来場者が楽しめる空間と時間の共有を実現できた。</p> <p>・予算面はほぼ当初の計画通り執行する事ができたが、今後の継続的な事業展開を前提に地域まちづくり活動以外の収支を含めたバランスの適正化が課題である。</p>		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>これまでの活動が認知されることにより、令和6年度は日下マンハイム自治会からのご依頼で盆踊りを請負うことができた。また、各種イベントへの出演や企画・運営への参画依頼も増え、着実に実績が残せるようになった。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>令和4年～6年度の助成金を受けて開催した意見交換会や提案イベント等を含めた各種予定や活動状況について、東大阪市市民活動情報サイト「スクラムは〜と」や各種SNS、インターネットラジオ番組をはじめとする各種メディアで発信する事により、問い合わせやイベント参画・出演依頼に繋がった。</p>

### 6. 活動内容がわかる写真



<b>7. 次年度の事業継続</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続して実施する	<input type="checkbox"/> 実施しない
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>	
<p>令和4～6年度で実施してきた「新しい形の祭り・盆踊りイベント提案プロジェクト」事業の実績を礎に、世代やジャンルを問わず様々な交流や情報をインターネットラジオ等により幅広く発信すると共に、練習生・研修生の募集と一般の方との交流やPRの場として、外部講師を招いて河内音頭セミナー〔トークショー・演奏体験・公開稽古（総踊り）〕を開催。</p> <p>また、伝統芸能・郷土芸能と幅広いジャンルの音楽が一堂に会するイベントの企画・設営・運営までをパッケージ化した提案を行い、各地域での開催に繋げて地域住民の交流を深める機会の維持・拡大を目指す。</p>	
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）</b>	
<p>上記の活動を継続しながら参加メンバーを増やすとともに、自主事業としての各種イベント開催や受託事業としてのイベント参画や出演で事業収益向上を図る。</p> <p>また、中長期的ビジョンとして、当該地域まちづくり活動助成金事業に関わられている他団体様とも連携し、後継者探索と育成とともに地域活性化イベント等の協業を図りたいと考える。</p>	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ひだまり		
団体名	ひだまり		
助成区分	部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	77,000円	総事業費	53,321円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	不登校児童の保護者の心身のサポートを目的とする。普段なら身近に相談相手がいたとしても、「不登校」という経験が無ければ相談者も相談しにくく、塞ぎがちになり孤立に繋がり易い為、外に出て気分転換ができる居場所づくりを目指す。			
2. 事業の内容	同じ悩みを持つ保護者同士が集まり、自分の悩みを話したり他者の考えを聞いたりして、気分転換や様々な考え方を共有できる茶話会を開催。短時間でも子育てを忘れて自分の為の時間を作って楽しめるよう、習い事のようなイベントや講習会も開催。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	・ ②	・ 3
	②実施場所はよかったか	1	・ ②	・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	・ ②	・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	・ 2	・ ③
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	・ ②	・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	・ 2	・ ③
	⑦広報はよかったか	1	・ ②	・ 3
	⑧予算は妥当だったか	1	・ ②	・ 3
4. 評価理由  ①～⑧の評価で十分になった理由 不十分だった理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分にできた事 自治会やリージョンセンターでのチラシ配布と SNS 活用によって、対象の方もそうでない方も活動に来ていただけた。</li> <li>・不十分だった事 準備不足でイベントが予定通りできず活動回数が減ったり、追加で講師を招いて支出が増えてしまった。 不登校児童の保護者の参加は少なかった。</li> </ul>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>対象者の不登校児童の保護者は少なかったが、子育てに不安を持つ保護者や、元不登校児童の保護者、元教職員、元児童相談員など子育てに関わる方に来ていただいた。楠根地域で活動する為に地域の方へ協力を仰ぎに行ったり、ももの実祭りやももの花祭りに参加させて頂くことで、地域の方々にひだまりの存在や活動を周知するきっかけができた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>来場者のアンケート結果を参考にして土・日曜日の活動を中心とすることにより、参加者が平日の時より増えた。</p> <p>チラシの配布先や SNS 告知回数が少なく、周知活動が消極的になってしまった為、対象の参加人数が少なかったと思われる。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<p><b>7. 次年度の事業継続</b></p> <p style="font-size: 1.2em;"> <input checked="" type="radio"/> 継続して実施する         <span style="margin-left: 20px;">・</span> <input type="radio"/> 実施しない       </p>
<p><b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントは規模を大きくして回数を減らし、スタッフが余裕をもって活動できるようにする。</li> <li>・他団体へ参加し、チラシ配布先と SNS 告知回数も増やして積極的に周知活動を行う。</li> <li>・ふれあい祭りなど参加型のイベントへも出店し、未就学児～大人まで幅広く周知活動を行う。また、お祭りは参加者が多数見込まれるので、同時に不登校についての啓発も行う。</li> <li>・上記の周知を行い、不登校児童の保護者や活動に関心を持った方に茶話会へ来て頂くことを目的とする。</li> </ul>
<p><b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b></p> <p>ふれあい祭りの参加、ひだまり縁日を開催して楠根地域以外への周知活動を行い、集客を図ると同時に活動資金を確保して自立化を目指す。</p> <p>地域の行事（ももの実祭り、ももの花祭り）に参加させていただき認知度を上げることによって、街ぐるみで不登校支援・子育て支援ができる、子育てしやすい住みやすい街を目指していく。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ダブルケア当事者の居場所づくり事業 2024		
団体名	ダブルケア東大阪		
助成区分	部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000 円	総事業費	246,420 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	子育てと家族の介護を同時に担う「ダブルケア」は現代社会において深刻な課題であり、ヤングケアラーとの世代間連鎖も指摘されています。ダブルケアの認知度は徐々に高まりつつありますが、更なる周知・啓発が必要です。本事業では、引き続きダブルケア支援の必要性を周知すると共に、定期的にダブルケアカフェを開催することで、当事者の交流や居場所づくりを行うことを目的とします。		
2. 事業の内容	パネル展を行い、一般市民や専門職など「支える側」の人々にダブルケアを周知・啓発していきます。前年度の反省を活かし、幟や看板を作成するなど、通りすがりの方の目を引く工夫を行います。ダブルケアカフェを開催し、悩みや愚痴を話したり、当事者同士の情報交換を気軽に行える場所を作ることで孤立を防ぎます。夏休み中の開催では託児を行い、安心して参加できる環境を作ります。		
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	①	・ 2 ・ 3
	②実施場所はよかったか	1	・ ② ・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	・ 2 ・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	・ 2 ・ 3
1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	⊙ 2 ・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	・ 2 ・ 3
	⑦広報はよかったか	1	・ ② ・ 3
	⑧予算は妥当だったか	1	・ 2 ⊙ 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	①時期・場所ともに参加希望者の要望にほぼ沿うことができた ②パネル展は新たな会場の候補も見つけたかった ③事業目的・事業計画通りに行うことができた ④参加人数は計画通り、会によってはそれ以上だった ⑤協力者・協賛企業・理解ある専門職の方に恵まれた ⑥計画通りに実行できた ⑦もっと多くの当事者にアプローチしたかったが、目標には達しなかった ⑧前回の反省を活かせず、通信費が予算を大幅に超えてしまった		

※ 1～4 を 1 枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>令和 5 年度事業以上に多くの方に関心を持っていただき、特にダブルケアカフェは毎回定員に達するかそれ以上の参加があり、専門知識を持った方から当事者へのアドバイスをしていただくこともありました。パネル展は、市役所 1 階で開催することにより、市役所を利用する一般市民だけでなく、市の職員さんも多く来場してくださいました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>メディアなどでダブルケアが取り上げられ注目されることにより、支援の必要性がより感じられるようになってきているのではないかと考えます。</p> <p>身近な問題として関心を持つ人が増えていくことにより、当事者も自分のダブルケアについて話しやすい雰囲気生まれています。「知人にダブルケアを打ち明けたら、ダブルケアカフェのチラシをくれたので参加した」という方もいました。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



**7. 次年度の事業継続**

継続して実施する

実施しない

**8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由**

- ・ 団体メンバーの生活の変化
- ・ ダブルケアに理解のある専門職・専門機関などとのつながりが増えたこと
- ・ 委員活動やダブルケア研究協力などによる収益の増加
- ・ 当事者に個別に寄り添うための新たな事業の模索

**9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)**

※ 5～9 を 1 枚に収めるように記載してください。

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子育てと教育・地域社会について考える、映画上映会		
団体名	～ほ～むべ～す～		
助成区分	スタート支援 部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000 円	総事業費	314,220 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	年々増加する、不登校の問題が身近になり深刻化しています。今まで受けてきた「一斉授業」では他者との違いを認め合えない環境になってしまっていると感じます。大人も子どもも誰もが個性を大事に、お互いを認め合える人を増やし、環境を作り、整えていきたいと考えています。			
2. 事業の内容	昨年度同様に、学校を舞台にしたドキュメンタリー映画の自主上映会を開催いたしました。 1回目の開催は、昨年と同じ東地区の会場を、2回目の会場は東大阪市の中心部へと変更し、より多くの方に足を運んでいただきました。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	<input type="radio"/>	2	3
	②実施場所はよかったか	<input type="radio"/>	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input type="radio"/>	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計 画通りの参加人数があったか	<input type="radio"/>	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	<input type="radio"/>	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input type="radio"/>	2	3
	⑦広報はよかったか	<input type="radio"/>	2	3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="radio"/>	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	今年度も保護者や教育関係者、市職員の方などたくさんの方に足を運んでいただきました。 現在の学校教育に違和感を感じたり、不登校や発達に関する子育てに悩まれている保護者の方など、なにかヒントや気づきを得ていただけるものがあったとアンケート等を見て実感しています。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか          映画を見られた学校の先生が、自校で上映会を開催されたりと大きな反響がありました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由          チラシの枚数を増やし、市内公立学校に配布いたしました。          また、市役所での予告編上映会の開催で、映画を知っていただくきっかけが作れました。</p>

## 6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続
継続して実施する
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由
<p>上映会後は子どもと主体的に関わっても、時間が経つとその気持ちが薄れて、つい感情的になってしまうというお声もあります。その時々悩まれている方に見ていただけるように、上映会を継続し、交流会を開催して直接悩みを話せてつながり合える場、声を聞ける場を作り続けたいと考えています。</p>
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)
<p>現在、企業2社から協賛いただいて活動しています。上映会や交流会の参加費を頂戴するとともに、想いに賛同してくださる方々に協力いただきながら、活動を継続していきたいと考えます。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ペタンク&フランス文化体験会～健康促進と多様性のコミュニティづくり、フランス言語・文化と触れ合い世界の多様性を学ぶ～		
団体名	東大阪ペタンククラブ		
助成区分	部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	100,000円	総事業費	150,062円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	ペタンクを使った継続的な健康促進・フランス言語と文化体験による多様性の獲得と、令和6年度は多様性のコミュニティづくりを強化していく。それにより、福祉制度等では補いきれない病気回復期や新たに健康づくりのツールを探している人たち等必要な人が精神的にも安心して参加できる多様性を理解し合えるコミュニティづくりを目指す。			
2. 事業の内容	① 東大阪ペタンクまつり（ペタンク&フランス文化体験会）/年2回 ② イベント出展でのペタンクのミニゲーム体験・ペタンクやフランス言語・文化を紹介したパネル展示によるペタンク普及と多様性と触れ合う機会の提供/年3回 ① ②の参加者が継続してペタンクを通じた多様性のコミュニティづくりの活動へ参加出来るように情報提供を行う（当助成金イベントやペタンククラブ等の紹介）			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	② 実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	東大阪ペタンクまつりに関しては、小学生の親子から高齢者まで幅広い年代の参加があり良かった。ペタンク道具と場所の関係で参加人数は限られてしまったが、今出来ることの中でペタンクを通して健康促進と人とのふれあいの時間を提供出来た。 出展に関しては、大多数の参加は子供であったが大人の参加もあり、不特定多数の人たちへのアピールに繋がり、ペタンクの普及に繋がった。 広報に関しては、小学校へのチラシ配布での参加はほとんどなかったが、ペタンクを知ってもらおうという点ではとても機能した。実際にPTAの方々から「ペタンクが流行っているみたいだね。」という声もあった。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>この数年はペタンクのクラブ団体が当団体以外で東大阪市内に存在しなかったため、市民にとって健康促進の為のスポーツ・コミュニティの選択枠の一つとして「ペタンク」が加わったことで「他のスポーツは合わなかったがペタンクなら出来そうだ。」と希望を感じて当団体に加入してくれる方もいた。多様性を大切に活動することで、人間関係のトラブルは比較的少なく、楽しく活動を続けてくれる方が多い。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>東大阪ペタンクまつりや体験会では小学生を中心に多くの子供たちの参加があったが、当団体への加入参加までは至っていない。理由は、当団体の定期練習会は助成金対象外の活動ではあるが平日の昼間がメインの為である。今後は土日祝日も定期的にペタンクを継続してもらえる環境づくりをして、平日と土日祝日の活動を繋げていくことにより、さらに世代間交流が出来るコミュニティへ成長出来ると考えている。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<b>7. 次年度の事業継続</b>
継続して実施する      ・ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">実施しない</span>
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>
<p>当団体の定期練習会での高齢者の定着率は高いので、今後は世代間交流が出来るコミュニティ作りを目的に子供から働き世代（小学生～65歳位）で平日昼間の活動参加が難しい方も参加出来るように、これまでは不定期開催だった土日祝日のペタンクの練習会を定期的に行っていく。その後、将来的に市内でペタンクを楽しみたい人の為の市民ペタンク大会の開催を目指す。令和7年度は当団体の定期練習会や団体内でのイベント活動の充実を図ることにより組織強化していくため助成金活動は行わない。</p>
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）</b>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ママの心と身体健康促進		
団体名	Fun Wellbe		
助成区分	部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	¥165,000	総事業費	¥230,265

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>コロナ禍を経て、若者でも運動不足や健康問題、将来への不安から心の病、自殺者も増えている現状。特に子育て世代は子供や家族への健康意識はあっても、ご自身を労り意識を向ける時間や機会が取れない現状を踏まえ、一人でも多くの方がココロとカラダの健康に意識を持ち、ヨガに触れる機会とコミュニケーションを通じて人とのつながりや温かさを感じることで、人生がより豊かなになる機会の創出を目的</p>			
2. 事業の内容	<p>イベントヨガ→3か月に一回と継続的に開催することで意識づけがしやすいカメラマンによる撮影→東大阪が子育てしやすい街づくりの一環として、ヨガを通じて、こうした活動を継続的にしていることを発信しやすくするため</p>			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	1	2	③
	② 実施場所はよかったか	1	2	③
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2	③
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	2	③
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分でできた理由 不十分だった理由	<p>参加者の満足度はすごく高く、リピーターや参加者からの口コミで新たな参加者も一定数見込めた。だが一方で、お子様を保育するスタイルなので保育士の不足により、大人の人数が足りなくなり、家族や参加して下さる方の中からの保育に回ってもらったり、カメラマンや保育士さんへの準備や内容などを考えると もう少し還元できるような予算をとれているとより見守り体制も充実するのではないかと考え、今年度ではその改善に意識を向ける。 広告に関してもSNSでの告知からの方がポスターより一定数新たな参加者が見込めたことから、今年度はやり方を少し変えながら、新しい参加者を見込む。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>参加者は予想人数をクリアし、毎回新しい参加者が一人でも増えたこと。 また子連れでの参加が思ったより多く、わたしたちが主となるだけでなく、お母さん方の横のつながりや情報交換などのする時間も設けられたこと。 また幅広い世代の女性に参加していただくことが出来たこと。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>新規の見込みがもう少しあってもいいかと思い、宣伝や広告の仕方を今一度考え(目にする頻度や宣伝ツールの多様化)さらに多くの人に知っていただけるよう二年目は活動していきます。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



継続して実施する

実施しない

<p><b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b></p> <p>参加者のお子様を見守る為のサービスの充実 (保育士の増員、安全安心な保育時間になるようなおもちゃや場所の確保) 新規につなげるための広告、宣伝 (東大阪で子育てする母にとって手助けになるイベントになるような内容の充実)</p>
<p><b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b></p> <p>毎回の参加人数が増えることにより、参加費で賄え自立していけるように今年度は認知度、内容の充実により一層焦点を当てて活動していく。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和 6 年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市内の各種「通いの場」ネットワークづくり事業		
団体名	東大阪「通いの場」連絡会		
助成区分	スタート支援 部門 ( <input type="checkbox"/> 1 回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2 回目 <input type="checkbox"/> 3 回目 )		
助成金額	182,000 円	総事業費	216,650 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域共生社会の実現のためには「住民自身が主体的に動く」ことが必要です。すでに市内で活動されている子育て・障害者・高齢者すべてに関係する“通いの場”の繋がりをつくり、それぞれの“通いの場”の充実や新たな“通いの場”の創設を目指すとともに、市役所担当部局や関係機関の協力も得て、様々な取り組みを展開していくネットワークづくりを目指します。			
2. 事業の内容	1) 「(1)公開例会」 4/4・6/29・10/10・11/14・11/30・12/8…コミュニティコーピング体験と情報・意見交換など 「(2)大交流会」 9/1・2/2…活動紹介と情報・意見交換 2) 市内の「通いの場」および関係機関の計 100 数十か所に「会報」などを郵送×4 回 3) 地域福祉ネットワーク推進会議への参加			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	②実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑦広報はよかったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	新たに始めた「公開例会（コミュニティコーピング体験など）」は、地域包括支援センターからの参加者も多くあり、関係機関とのつながりをつくることにつながった。「大交流会」については、好評だった昨年度 2 回目の内容を踏襲、参加者のつながりを強化することができた。ただ、継続した参加者が少なく、広報についての配慮・工夫が必要である。地域福祉ネットワーク推進会議については、担当者（事務局）との連携が不十分で、会合の案内がなかったり締切間際になることがあった。連携強化が必要である。			

1～4 を 1 枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>会員数 33（個人 26・団体 7）と目標の 50 には届かなかったが、各種イベントの開催、地域福祉ネットワーク推進会議への参加などを通して、ネットワークづくりが少しずつではあるが進んでいる印象がある。また、「通いの場」や支援団体がつながることで、若者の助言を得て高齢者関係団体が SNS にチャレンジする、障害者施設に対して運動の専門家が体操の助言をする、地域包括支援センターを通じて高齢者施設から障害者施設に対して障害者による高齢者介助の打診があるなど、新たな取り組みが生まれている。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>「イベント」参加者からは「つながりの大切さを再認識、このようなイベントの開催や会の継続を希望する」などの感想が多くあった。一般的なチラシやポスターの掲示・配付といった広報の方法だけでは、なかなかそのことを伝えるのが難しい。会員の“口コミ”やホームページ・インスタグラムを活用しての広報を引き続き行っていく。</p>

## 6. 活動内容がわかる写真



11/30「公開例会」の様子



2/2「大交流会」後の記念撮影

## 7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

## 8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

引き続き「幹事会（助成対象外）」を毎月開催、各種イベントの計画立案などを行い、円滑な会運営に努めていく。従来からの「公開例会（コミュニティコーピング体験など）」「大交流会」を継続、様々な団体とのつながりを強化、広めていく。また、新たに「分野別交流会」を開催、他分野との協働について情報・意見交換、新たな取り組みの創設に努める。地域福祉ネットワーク推進会議への参加、ホームページ・インスタグラムによる広報活動などを通じて、市内の関係機関や団体に当会の存在を広め、ネットワークづくりを進めていく。その結果、各人の悩みを解消し、活発な活動、活発なまちづくりに寄与する。

## 9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

今までの取り組みを通して、地道に活動していくことの重要性を再認識している。爆発的な会員増加や参加者増加は望めないかもしれないが、各種「イベント」開催や「地域福祉ネットワーク推進会議」への参加、関係者への広報活動や会員による新規会員獲得に向けた取り組みを継続することで、会員の増加や関係機関との連携強化に努めていく。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	おもちゃの広場		
団体名	おもちゃとあそび tocotoco		
助成区分	スタート支援部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	98,000円	総事業費	126,700円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	現代の子育て世帯を取り巻く課題として、育児の孤立化やスマホ、DVDなどのメディアが浸透していること等があります。平成16年に日本小児科学会から長時間のメディアの視聴は乳幼児期の子どもの発達へ与える影響について注意喚起がされています。おもちゃの広場では、全国のおもちゃコンサルタントにより選ばれた「グッドトイ」を中心としたおもちゃで遊ぶ機会を提供します。グッドトイとは手触りや香り、扱う事での動きの面白さや美しさなど、子どもの五感に働きかけ、他者とのコミュニケーションを促進すること等の基準をクリアしたおもちゃです。おもちゃの広場で、親子が一緒に遊ぶことを通して、子どものおもちゃへの興味の広がりや、親子のやり取りが促されるきっかけとなることが期待されます。また、おもちゃで遊びを通して、様々な手指の動きや、言葉の理解や表現、創造力、人とのやり取りなど、発達への刺激となることや、保護者が子どもにとっての遊ぶことの意味などを考えるきっかけになることが期待されます。			
2. 事業の内容	年4回程のおもちゃの広場の開催を通して、乳幼児期の子どもとその保護者が安心して、グッドトイで遊ぶ機会を提供したいと考えています。乳幼児期の子どもを持つ感覚や豊かな感受性を育み、保護者や他の子どもとのコミュニケーションが自然と生まれます。親子で一緒におもちゃで遊ぶことを通して、親が子どもの興味関心を知り、家庭での遊びやコミュニケーションが広がって欲しいと考えています。			
3. 事業評価	①実施時期(日時)はよかったか	1	2	3
	②実施場所はよかったか	1	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	2	3
1 十分だった	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの 参加人数があったか	1	2	3
2 一定できた	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	2	3
3 不十分だった	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2	3
	⑦広報はよかったか	1	2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	年4回のおもちゃの広場開催を目指し、初めて取り組みましたが、無事に4回開催できたことは良かったと思っています。乳幼児の子ども育てている親子にターゲットを絞っており、インスタグラム、スクラムは一等の広報媒体を使用して集客しました。フォロワーも少ないため、参加人数は少ないですが、目的としている乳幼児期のお子さん達が集まってくれました。課題としては、広報・集客についてと、グッドトイを使う意味や、子どもにとっての遊びやおもちゃの意味について、参加してくれた保護者に伝える方法や内容をさらに検討していく必要があると感じています。			

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>おもちゃの広場に参加された方から、家庭でもよくおもちゃで遊ぶようになったとコメントをいただきました。また、おもちゃの広場では親子で一緒に遊んでもらうので、子どもだけが遊んでしまうことはなく、親から子へ、子から親へと視線や言葉を交わしながら遊ばれている姿が印象的でした。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>参加された人数が2組～4組ほどであり、主催する側としては親子でゆったりと遊ぶ空間ができて、かつ安全管理も行き届きやすいので良かったと思いますが、想定していたよりも参加人数は伸びませんでした。広報が行き届かない点や、開催日が土曜日の午前中と固定していたため、参加者が限られていたのか、次年度の開催方法の検討材料にしたいと思います。</p>

## 6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続して実施する</p> <p><input type="checkbox"/> 実施しない</p>
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由	<p>活動チラシを作成し、公共施設への配架や子育て支援施設などへの配布を行い、インスタグラムのフォロワー数の増加を目指します。また市政だよりへの掲載も依頼します。おもちゃの広場を開催しない期間は、助成金で購入していただいたおもちゃを子育て支援団体などに貸し出しを行い有効活用に取り組みます。</p>
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)	<p>活動資金を得るために、おもちゃの広場とは別に、イベント等への出店を行い「おもちゃ作りワークショップ」などに取り組みます。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市に独自の芸術文化を形成する事業		
団体名	東大阪市ジャズ協会		
助成区分	部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	¥100,000	総事業費	¥97,808

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市で独自の芸術文化を育て、魅力的な街に発展させるため、市民が気軽に本格的な芸術に触れられる機会や、芸術家の作品レベルや演出力、鑑賞者の芸術リテラシーを高める必要があったため。			
2. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一回プチコンサート：令和6年6月7日午後7時～午後8時30分、菱屋西公民分館、約70人</li> <li>・ 第二回プチコンサート：令和6年8月9日午後7時～午後8時30分、菱屋西公民分館、約60人</li> <li>・ 第三回プチコンサート：令和6年10月19日午後2時～午後3時30分、荒川公民分館、約50人</li> <li>・ クリスマスコンサート：令和6年12月20日午後7時～午後9時、夢広場、82人</li> <li>・ Art of Jazz Jam：令和7年3月22日午後7時～午後10時、小阪商店街ミュキ珈琲、約50人</li> </ul>			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	・ <input checked="" type="radio"/> 2	・ 3
	②実施場所はよかったか	<input checked="" type="radio"/> 1	・ 2	・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	・ <input checked="" type="radio"/> 2	・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	<input checked="" type="radio"/> 1	・ 2	・ 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	・ <input checked="" type="radio"/> 2	・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	・ <input checked="" type="radio"/> 2	・ 3
	⑦広報はよかったか	1	・ <input checked="" type="radio"/> 2	・ 3
	⑧予算は妥当だったか	1	・ 2	・ <input checked="" type="radio"/> 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分になった理由 不十分だった理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実施日時については、出演者の都合を優先しており、必ずしも最適とは言えない。</li> <li>②計画通り、市民にとってアクセスしやすい公民館などで開催できた。</li> <li>③プログラムの内容は、事業目的と整合性が取れているものと、そうでないものがあった。</li> <li>④意図した近隣の市民が受益者となり、参加人数も計画を上回った。</li> <li>⑤各地域の自治会に協力を得て広報できたが、協力体制はまだ十分とは言えない。</li> <li>⑥予算内で十分に企画・準備できたが、更なる改善の余地がある。</li> <li>⑦できる限りの広報は行ったが、まだ十分とは言えない。</li> </ul>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東大阪市民が身近な場所で多様なジャズイベントに触れる機会を提供し、地域における芸術文化の振興に貢献するという成果を上げることができました。</li> <li>・クリスマスコンサートでは、有料にも関わらず82名の集客があり、内容や時期によっては適切な価格設定で集客が見込めることが示されました。</li> </ul>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館など市民にとってアクセスしやすい場所でイベントを開催したことが、多くの参加者を呼び込むことに繋がりました。各イベントにおいて、楽曲解説などを実施したことが、参加者の満足度向上に繋がりました。</li> <li>・広報活動において、市政だよりの掲載頻度の制約や、自治会掲示板の利用の難しさなど、広報手段の制約がありました。</li> </ul>

#### 6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続	<p><u>継続して実施する</u>      ・      実施しない</p>
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由	<p>昨年度は無料コンサートイベントが中心であったが、今年度は有料イベントを増やしていく。今年度は他の芸術分野とのコラボレーションを実現していく。昨年度学んだイベントでの説明と演目のバランスを生かしていく。</p>
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）	<p>さまざまな芸術分野のコラボレーションを通じて、東大阪市の芸術ネットワークが構築され、独自の芸術文化が形成される。それぞれの芸術分野の鑑賞者が分野を超えて他の芸術にも興味を持つことで、芸術リテラシーが向上する。集客の範囲も増え、芸術家のレベルも上がる。公民館で無料イベントを実施し、同じ地域のリージョンセンターでの有料イベントの集客に結びつける。価格調整しながら、収益と集客のバランスを見極め</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

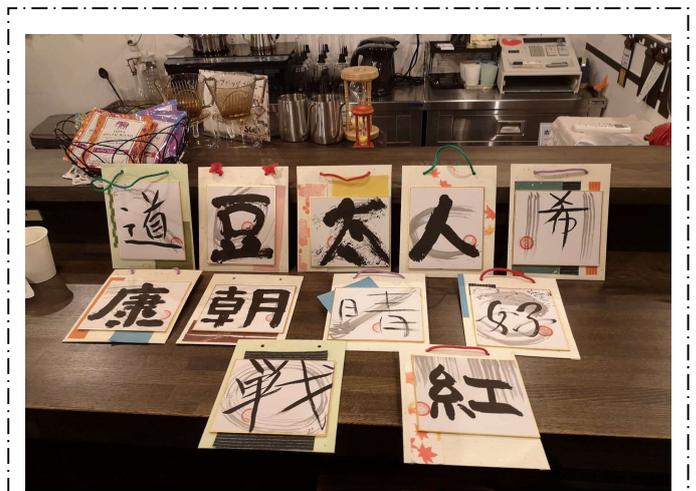
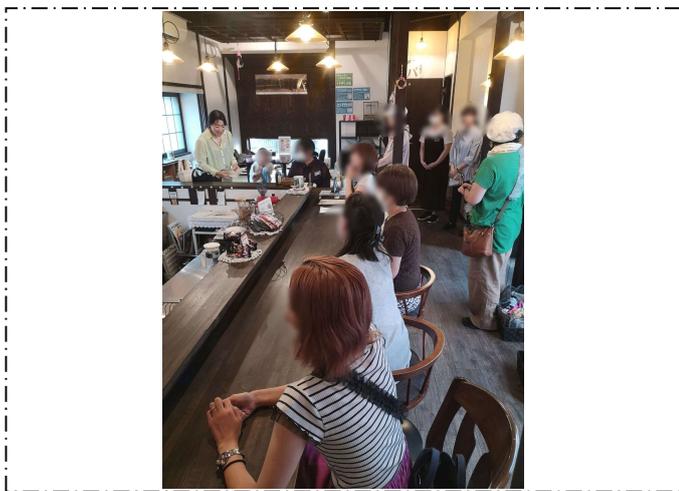
事業名	不登校・起立性調節障がい 子と親のフリースクールテント東大阪校		
団体名	フリースクールテント		
助成区分	スタート部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000	総事業費	247,812

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域社会で孤立しがちな不登校児の学校復帰だけでなく、彼らに「第三の居場所」となる”地域の安心できる場所”をつくることを目指しています。校区以外でも同じような悩みを持った人たちと新たな繋がりを作り、学校生活へ復帰できる、大きなきっかけにしてもらうことを目標にしています。			
2. 事業の内容	起立性調節障がい・不登校でお悩みの親子が集い、廃材工作や講師を招いてのワークショップをしながら話をするフリースクールイベント。スタッフは全員が、もと当事者か、当事者の親。気兼ねなくなんでも聞いて、話していただける場所です。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	1	②	3
	② 実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	①	2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	2	③
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	場所的には、前年度までの大東市校にお越しいただいていたご家族にも、東大阪から新たにきていただく方にもアクセスしやすい立地でよかったと思います。時間を18：00までと設定していましたが、17：00スタートという設定が遅かったのか、毎回19：00近くまで場所を借りることになってしまい、ご迷惑をおかけしました。毎回ワークショップを変え、楽しんでいただけるよう配慮しましたが、予定より講師を多く招き、予算を大幅に超えてしまいました。口コミで自然と広く宣伝をいただきましたので、広報費用は予定より少なく済みました。嬉しい誤算でした。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>当事者以外にも、新規でスタッフとしてかかわりたいとお越しいただくことが多く、別の【居場所づくり】をされている方をご紹介いただき、結果的にたくさんの居場所を持つことが出来たこと。知り合った子供たち（例えば、中3男子と中2男子）がゲームを通じて仲良くなり、近場のこども食堂へ子供だけで出かけたり、フリースクールテントへも二人で連絡を取り合いながら参加してくれました。受験を終えた子がこれからの子に具体的なアドバイスをくれ、親の励みにもなった。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>やはり、前年度までの開校場所とそう遠くない場所（フリースペースかんのさん）での開校だったため、参加者の共通の知り合いも多く、参加希望者が常に20名を超えていました。人数が多いことで相乗効果も大きく、無理なく成果が上げられました。</p> <p>ワークショップ講師を多くお呼びし、顧客獲得にもつなげてほしかったが、参加者にそこまでの心の余裕がなかったことが、残念でしたが仕方ないと思います。</p>

## 6. 活動内容がわかる写真



<b>7. 次年度の事業継続</b>
継続して実施する      ・ <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">実施しない</span>
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>
<p>助成金事業としては継続しませんが、個人的に全く同じことを継続して東大阪で行います。改善すべき点は、人件費の確保。広報はお金をかけずにできることがわかった（口コミや、自分がほかの支援場所へと出かけていくことで、自分の事業を知ってもらうこと等）ので、費用は抑えられると思います。宣伝も兼ねて、でも一番にはこどもたちのキャリア教育として、イベント出店も計画しています。</p>
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）</b>
<p>令和6年度は2か所での開校でしたが、7年度は3か所での開校が決まりました。そのほかにもイベント的に、客数の少ない飲食店などでも開校させてもらい、顧客獲得の一助として担いたいと考えます</p> <p>検討中ですが参加費を300円から500円に値上げさせてもらうつもりです。協賛を募り、フリーペーパーを配布するなどし、参加することで近隣の不登校支援などの情報を得られるような仕組みを作ります。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

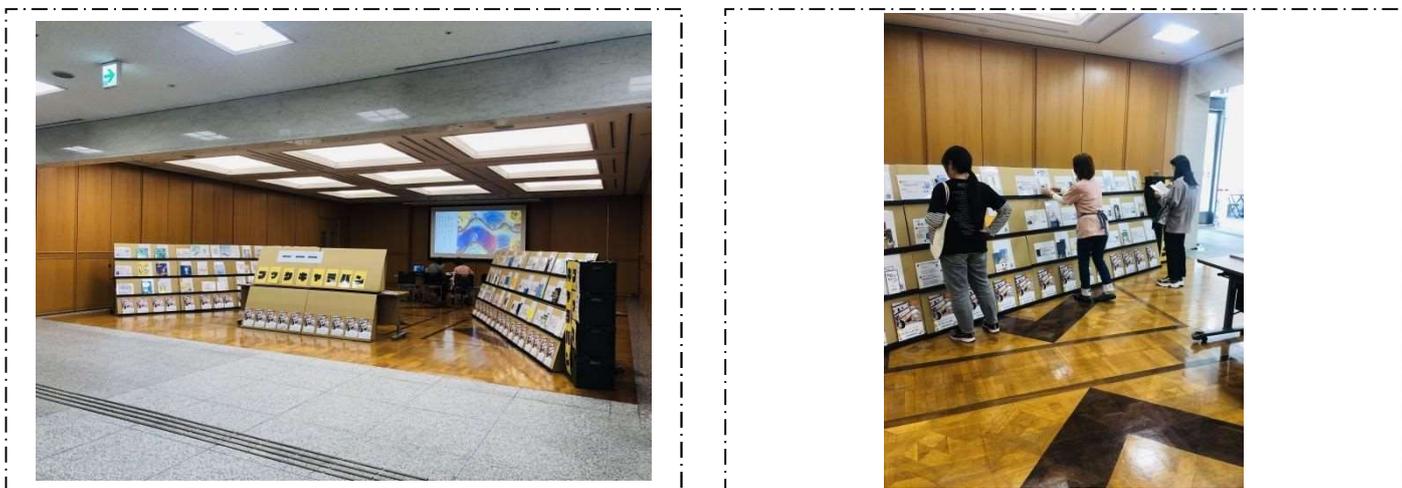
事業名	ブックキャラバン		
団体名	ブックキャラバン事務局		
助成区分	スタート支援 部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000 円	総事業費	255,565 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>自費出版したことにより、本屋に並ばないことで知られていない書籍がたくさんあり、読者の目にふれる機会が少なく、知られていないのが現状です。</p> <p>加えて、書店の減少に伴い、年齢問わず書籍に触れる機会が少なくなっており、「こんな本があるんだ」というワクワク感の提供や、著者らによる本の寄贈のサポートを行う。</p>			
2. 事業の内容	<p>本屋に並ばない自費出版した著者らによるグループ展「ブックキャラバン」を、東大阪市役所多目的ホールを使用して、さまざまな世代の多くの市民の方に手に取って自由に読んでもらう。グループ展終了後は、東大阪市内の施設や団体へ寄贈されるという社会貢献活動も併せて行う。</p>			
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	1	2	③
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	<p>ブックキャラバンの案内を市政に載せたら、普段活字を読んでいらっしゃる読書好きな方々がたくさん来てくださいました。またくると言って、再び足を運んでくださる方がいて、とても嬉しかったです。</p> <p>ただ、不十分だったのではないかと思います。自費出版した著者に向けた広報があまり上手いかなかったため、100冊集められなかった原因のひとつだと思います。もう少しSNSをうまく使えたらと思いました。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>1日20名くらいの来場者を予想していたのですが、その予想を上回る方が、本を手にとって読んでくださったことを嬉しく思います。出展いただいた著者の方も来てくださって、書籍の展示をとっても喜んでくださいました。休日参観の振替日と重なった日は、小学生の子も来て読んでくださり、土曜を含む平日開催ではありましたが、小さい子からご老人の方まで、男女問わずさまざまな世代の市民の方に本を読んでいただきました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>もともと読書が好きな方は活字をしっかり読んでいる方が多いので、市政に載せたことで、読書が好きな方に興味を持っていただけたのだと思います。奥にイスを用意していたのですが、気軽に手に取っていただける立ち読みスタイルが良かったのではないかと思います。スクリーンにはパンフレットの内容を常時スライド式で映し出し、視覚的な動きでも、興味を持ってもらったきっかけになったと思います。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<b>7. 次年度の事業継続</b>
継続して実施する      ・      実施しない
<p><b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b></p> <p>健康上の理由で、今年度と同じ動きは出来ない。 次々年度に向けて、体力と筋力を落とさないよう気を付けます。</p>
<p><b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b></p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子ども達の学校に行かないというアクションから考える —子どもの人権を尊重し、今の時代にあった教育とは—		
団体名	トーキョーコーヒー東大阪		
助成区分	スタート支援部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000 円	総事業費	338,764 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	近年、不登校児の増加が深刻化。学校では人手不足が深刻で、現代の多様化した子ども達への対応が困難となっている。そこで、保護者や地域住民・企業の力を借り、学びの場の選択肢を増やすことで、それぞれの個性に合わせた学びの機会を与えることが可能と考える。現状の周知と時代にあった本質的な教育とは何かを議論し、地域全体が一丸となって学校に行く子も行かない子もサポートできる体制を整える。また、不登校児の親の不安や焦りが子どもの状況を悪化させる例も多くみられるため、親同士が繋がり相談できる場を増やすことを目的とする。			
2. 事業の内容	1) 教育わかトーク (学校のイメージと教育に求めることを対話する) 2) 堀越けいにん講演会 (民主主義と子どもの人権について) 3) オモロー授業発表会 (公教育で子ども主体の授業をしている先生の発表) 4) 吉田田タカシ講演会 (トーキョーコーヒー発案者の教育についての話)			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期 (日時) はよかったか	<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
	②実施場所はよかったか	<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input type="radio"/> 1	<input checked="" type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
	⑦広報はよかったか	<input type="radio"/> 1	<input checked="" type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="radio"/> 1	<input checked="" type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	合計4つのイベントを開催したが、1つを除いては計画以上の参加があった。参加者の属性も保護者だけでなく、教育関係者や学生、市議会議員など、共有したい層に沢山話を聞いてもらったり、対話したりすることができた。 企画段階とはイベントの規模が大幅に変更になり、またチラシを学校に配布お願いするつもりで印刷したものの、配布できない所も多く沢山余らせてしまったため、企画時に広報の範囲や参加人数の設定方法については再検討する必要がある。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>全ての事業において予定通り、または予定外に多く1日合計200名程度の参加者を獲得できた。さらに、参加者属性が保護者だけでなく教育関係者や学生、市議会議員など参加してほしいと考えていた層の参加もみられた。</p> <p>参加をきっかけにトーキョーコーヒーに興味を持って連絡をもらったり、教育に興味を持つ方との繋がりが増えた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>「民主主義と子どもの人権について」の講演会は広報が遅れてしまったことで参加者が伸び悩んだ。しかし、わかトークは開催決定が2週間前にも関わらず直接声掛けをしたことにより20人近く集まり、オモロー授業発表会とトークライブについては、チラシ配布やSNSでの広報を2か月前に開始できたこと、スタッフそれぞれが積極的に個別でのお誘いをしたことで、予定以上の参加者を得られたと考える。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<b>7. 次年度の事業継続</b>
継続して実施する      •      実施しない
<p><b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b></p> <p>他団体が同じような目的をもって活動してくれていることもあり、今後は単発イベントではなく定期的な居場所活動を継続して行うことに重点を置き、学校との連携も取っていくことを考えています。</p> <p>それぞれの助成金団体が、様々な視点から子どもや子育て世代へのサポートをしてくれているため、連携して現状の制度では足りない部分を補えるようになることを期待しています。</p>
<p><b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b></p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域全員顔見知り（ご縁づくり）事業		
団体名	EN		
助成区分	チャレンジ部門 （ <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 ）		
助成金額	200.000 円	総事業費	161.088 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	「円になってつながる縁」をコンセプトに地域で顔の見える関係が築ける時間を作ります。イベントを通して多世代が顔見知りになり、少しでも1人になる時間が少なくなり地域全員が繋がれる関係作りを目的とする			
2. 事業の内容	地域の高齢者に健康講座を行い 世代間交流を目指し地域の商店や自治会、PTA や住人と共に朝市 EN マルシェを開催。 地域の高齢者を中心とした「昔遊び会」の開催			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	2	3
	②実施場所はよかったか	1	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	1	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	1	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2	3
	⑦広報はよかったか	1	2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	<p>昨年の反省を踏まえ、今回は自治会や PTA 等の地域で活動されている方達の協力を得る事ができた。自治会の協力により、ブース出店して頂き地域の子も達との交流を図る事ができた。公園という集う場でそれぞれ商店同士の繋がりや、住民へに宣伝にも繋がった。広報でも昨年以上に SNS や回覧板や掲示板等で行う事ができた。昔遊び会でも前回よりもより懐かしいイベントとして、紙芝居士にも参加して頂き懐かしむイベントを行う事ができた。</p>			

※ 1～4 を 1 枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>健康講座では定期開催を行う事で毎回同じ参加者に来て頂く事ができた。</p> <p>朝市 EN マルシェでは昨年を上回る来場者に来て頂き、地域の商店や自治会それぞれをアピールできる場となった。また協賛企業の協力を得る事もでき、多方面で協力者w募る事ができた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>昔遊び会に関しては、昨年は土曜日に開催した為目的とした児童の参加人数が少なかった。今回日曜日開催を行ったも、児童よりも幼児が多かった印象がある。世代間交流の目的としては成果をあげる事ができなかつたと考える。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



**7. 次年度の事業継続**

継続して実施する                      ・                      実施しない

**8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由**

2年間助成金活動を通して沢山のご縁に恵まれました。地域のご縁だけではなく、実際にイベント開催においても協力団体様や企業様との繋がりもでき、助成金を受けずに今後は活動できる見通しができました。次年度は助成金を受けずに事業を続けていきたいと思えます。また今後は新たにチャレンジされる団体さんのサポートをしたいと考えています。

**9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)**

一番経費としてかかる部分(チラシ代や公園使用料)をしっかりと利益にしなければいけない。出店料を助成金利用の間は低額で設定していたも、告知の方法も身に付き、集客にも繋がっている事から出店者の利益に見合った出店料を設定しイベント自体の価値をあげていく。協賛企業へ協力も引き続き行い継続して開催できる工夫を行っていく。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

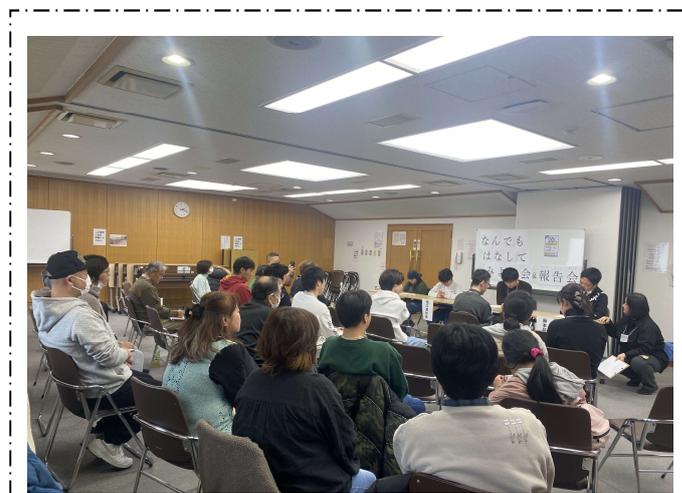
事業名	なんでもはなしてみよう会		
団体名	よりみち		
助成区分	スタート支援部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000	総事業費	238,654

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	高等学校を卒業した知的障がい者は、住んでいる地域や障がい区分によって進路を決定することが多いです。そのため学生時代の関係が分断されることがあります。その家族もまた、横の繋がりがなくなり孤立してしまっている現状があります。安心安全な場で気持ちを表現することで、ニーズを共有し、だれもがいきいきと暮らせるまちづくりにつなげていくことを目的とします。			
2. 事業の内容	知的障がい当事者とその家族が安心して気持ちを表現できる場づくり。 小さなグループにわかれて自由に気持ちを表出してもらう。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	② 実施場所はよかったか	1	②	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	①	2	3
	⑧予算は妥当だったか	①	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	準備にしっかりと時間をかけるようにしました。ファシリテーターのみなさまとも早期の段階から集まり、会の趣旨を理解してもらう時間をしっかりと確保しました。 また、前回の反省をふまえ、広報活動を念入りに行いました。SNS だけでは障害当事者には情報が届きにくいと、チラシの配布や、趣旨説明など、実際に赴いて話しをするようにしました。だれもが当事者という視点から間口をひろげ、幅広い年代の当事者や家族にも参加してもらうことができました。想定よりも人数が増えたため、急遽場所を広げることにしました。下見の段階では問題無かったのですが、実際に集まって話しをすると声が反響してしまうことがあり、その点が不十分でした。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>それぞれ自分の思いを自由に表現することができていました。始めはグループの輪に入ることを躊躇していた障害当事者の方が、同じグループの人の温かい声かけや関わりによって、だんだんと輪に入っていく、最後には自分の気持ちを伝えるまでになりました。これにはご家族の方も驚いておられました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>だれもが当事者という視点で幅広い年代へ広報活動をしたのが参加に繋がったと思います。グループで話しをする際のルールをつくり、お喋りが得意不得意にかかわらず、ゆっくりと自分の時間を使えるようにしました。</p> <p>親子参加の方はグループをわけてお互いに気兼ねなく喋れる環境をつくることができましたと思います。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<b>7. 次年度の事業継続</b>	
継続して実施する	・ <input type="checkbox"/> 実施しない
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>	
<p>大きな会ではなく少人数のちいさな集まりも含め、なんでもはなしてみよう会は存続させていこうと思っています。東大阪市以外でもやってほしいという声があったので、いろいろな地域で開催できたらと思っています。</p>	
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b>	
Empty space for content	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	教員志望大学生の研修及び個別サポート事業		
団体名	子どもも教員も育つまち東大阪		
助成区分	チャレンジ部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	100,000円	総事業費	111,456円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	教職離れが目立つ昨今、教職のすばらしさや正しい知見を獲得することで、モチベーションを継続しながら教員を目指す人材を増やすことを目的とする。市教育委員会、大学任せではなく、市民の力で教員志望の学生を育てることを事業の核とする。「辞めない教員」「やりがいを感じ続ける教員」を増やし、東大阪市の義務教育を安定・充実させることを最終目標とする。			
2. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏と冬に集合型研修を開催。現職教員の参加も呼びかけ、教員志望学生とのかかわりの中で、双方が刺激し合い、気づきを深められる学びの場を設定する。</li> <li>・教採面接練習や模擬授業指導助言など、教職キャリア支援を実施</li> <li>・教育系学生プロジェクトや教職サークルの活動支援</li> </ul>			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	②実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑦広報はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	<p>実施時期については、大学生のニーズに合わせ、夏・冬ともに2回開催とした。場所は、参加学生が最も多い近畿大学（東大阪キャンパス）とし、設備も充実していた。内容も、参加者が知りたい項目を取り扱うことができ、ゲストティーチャーの活用も有効だった。大学や教職志望学生サークルとの連携を行い、よりよい企画やロコミ参加も得られたと考える。</p> <p>ただ、広報については検討の余地もある。ポスターやチラシの効果がどれほどあったのか、不透明である。今年度の反省を生かし、次年度予算を設定したい。また、複数回設定としたため、日によっては学生参加の少ないイベントもあった。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>夏期、冬期にイベントを実施し、一定数の参加者があったこと、参加者の振り返りで、「現在の学校の状況が分かった」「教育実習で生かしたい」など前向きな考えを聞いたことが挙げられる。教員志望学生のニーズにマッチし、モチベーションを向上させるという目的が果たされたと思われる。また、教員を志す学生サークルや教員が組織する教科研究会と連携を取ることができた点が、事業継続性の観点で予定外に得られた成果といえる。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>後援名義の取得や市の自主校長会での情報提供の機会など、積極的かつ地道な手続きを継続し、事業の信頼性を上げた点が大きい。また、会場を近畿大学東大阪キャンパスにしたこと、学生も現職教員も来やすい日程を選択し、同内容を複数回で開催したことも、学生の参加者数を上げることに繋がったのではないかと考える。</p>

## 6. 活動内容がわかる写真

8/21・9/7（対面開催）、12/10（オンライン開催）

1/7 対面開催 授業づくりと子ども対応交流会

教育実習前・インターンシップ前セミナー 資料抜粋

**5. ミニトーク「もしも、こんなときは・・・？」**

中学1年生（女子）のAさんは、新学期当初から距離感が近く、担任によく声をかけたり、ちょっかいを出したりしていました。1学期は、問題を起こすこともなく終えましたが、夏休み明けから様子が変わりました。

授業中、「おもない」と言うことが増え、教師が注意をすると、「トイレ」と言って長時間戻ってこない場面もありました。また、担任に聞こえるように、友だちに「あいつ（担任のこと）うざい。むかつく。」と話している様子も見受けられます。今のところ、同じクラスの友だちは、Aの様子を見ているようです。保護者（母）には、連絡は取れますが、忙しい様子です。父の面影はありません。

**【考えなければいけないこと】**

- ・夏休み中に、家庭内で何かあったかもしれないという認識は持っておく
- ・何か嫌な思い、つらいことがあったかもしれないという「想像」は持っておく
- ・家庭環境がどのような状況であれ、ここは「学校」であるということ
- ・よくない行動が何かを認識させ、その行動について注意をすること
- ・人として良くない行動は、実習生・インターンシップ生でもためらわず注意すること

**愛護碑書に関する  
知識理解**

**毅然とした指導  
心に寄り添う  
根拠強さ**



## 7. 次年度の事業継続

継続して実施する

・ 実施しない

## 8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

大学や校舎長会、市教育委員会、学生団体等、さまざまな関係機関と協力連携し、イベント参加者数を増やしたい。また、SNSやホームページ運用を本格化させ、広報活動を強化していく。

また、昨年度は不定期に実施していた教員志望者の個別サポートを、年間の定期事業としてモニター募集する。1年を通じて同じ学生に丁寧に関わることで、地元で教員を志す若者を育てていきたい。

## 9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

教育系企業による寄附金獲得など、新たな財源を模索する。また、教育実践論文等を投稿し、助成金や奨励金を集めることも検討している。

この1年でどの程度の実績を上げられるかによるが、本事業アイデアを教育ベンチャーに投げかけ、共同事業として存続させることも視野に入れて事業運営していく。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市障害者文化スポーツ大会		
団体名	東大阪市障害者文化スポーツ大会		
助成区分	スタート支援部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	192,000 円	総事業費	325,071 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市内にはふれあい祭り等、大規模な住民の交流イベントがあります。障害者の中には合理的配慮や支援者がいることで、そういったイベントにはじめて参加できる方がいます。当会は一人ひとりに配慮がしやすいようコンパクトなイベントを通年で実施し、障害者を含めた住民間の交流が増えることを目的としています。また、イベントを開催するだけでなく、一緒にイベントを作り、一緒に参加することで相互理解を深め、誰もが暮らしやすい東大阪市のまちづくりの一助になることを目的としています。					
2. 事業の内容	定期的にイベントを開催しています。 ボッチャ大会・運動会・凧揚げ大会といった体を動かすイベントや、創作物の展示会といった文化的なイベントを実施しています。					
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	・	②	・	3
	②実施場所はよかったか	1	・	②	・	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	・	②	・	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	1	・	②	・	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	1	・	②	・	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	・	②	・	3
	⑦広報はよかったか	①	・	2	・	3
	⑧予算は妥当だったか	1	・	②	・	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	参加者の障害特性に応じた細かな配慮を実施することで、普段はイベント事への参加を敬遠されている方も安心して参加することができたというお声をいただきました。イベント内容の改善を常の実施することで、一度参加したことがある方を飽きさせることなく、参加意欲を高められたと思います。 一方で地域の方のイベントへの参加数が少し増えましたが、まだまだ目標に対しては少なかった点が課題です。					

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>今年度も各イベントに約200名の方が参加してくださいました。イベントに参加された方が事業所にて「楽しかった」「また行きたい」とお話しくださり、その話を聞いた方が新たに参加をしてくださっています。その結果更に事業所の垣根を超えた交流が増えています。地域の方のイベントへの見学や参加が少しずつ増えています。企業の方が定期的にボランティアとして参加してくださっています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>月に一回実行委員のメンバーが集まり、各イベントの内容をブラッシュアップしています。地域の方により私たちの活動を知って頂くため、他の助成金団体の活動やふれあいまつり等に参加しました。各イベントのチラシを作成してのPRや、ボランティアスタッフの募集を幅広く実施しました。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<b>7. 次年度の事業継続</b>	
継続して実施する	・ 実施しない
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>	
<p>地域の方のイベント参加数が少なかったことが今年度の課題でした。</p> <p>今後はより当会の取り組みを広く認知して頂けるように、東大阪市内の住民、学校、障害福祉事業所等へのPRを強化していきます。(SNS、チラシ配布等)</p> <p>当会のイベントだけでなくふれあい祭り等のイベントに参加し、当会の活動をPRしていきます。</p> <p>各イベントへのボランティアの募集も進めていきます。</p>	
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b>	
<p>継続してイベントの開催や活動のPRを実施することで知名度を高めていき、当会に賛同いただけるスポンサーを募って持続可能な会となることを目標とします。</p>	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子宝マルシェ		
団体名	ひのもと		
助成区分	部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200000	総事業費	

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市の歴史・文化・伝統を知り、地域社会や経済の流れを学び郷土愛を育むことが薄れていっているように感じる。そのため、子どもたちだけでなく大人も自らの「やりたい」を探求させることを実践する。「お金」「食」「地域文化」の流れや仕組みを学ぶ中、活躍する場として「子宝マルシェ」を開催することとした。そこで得た学びや地域とのつながりが日常生活をよりよいものになることを目指す。地域社会の一員としての自覚が子どもたちに芽生えることにつながると考えている。			
2. 事業の内容	「子宝マルシェ」では、子どもたち（幼稚園から大学生まで）は出演すること・お店で販売すること、マルシェへ参加することで自分の得意を發揮させ、「地域で活動している共生意識」を高め育てていく。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計 画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	①	2	3
	⑧予算は妥当だったか	①	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	本事業は、計画段階から実施・振り返りに至るまで、すべての面においてバランスよく取り組むことができた。プログラムについては、「子どもたちが主体的に学び、表現できる場をつくる」という目的に沿った内容を展開。子宝マルシェでは出店やステージ発表参加者の学びや気づきを促す構成となっていた。また、受益者についても、事前に想定した子どもや保護者、地域住民が中心となって参加し、各イベントにおいて計画通りの参加人数を達成。地域とのつながりの中で、子どもたちが自分の役割を果たし、達成感を得る姿が見られた。運営体制では、地域の神社、商店街、団体、企業、医療機関などとの連携がしっかり行われた。また、準備段階でも定期的なミーティングや出店者説明会を実施し、関係者が一丸となって進められた。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p><b>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</b></p> <p>予定していた成果として、子どもたちが主体的に出店や発表を行い、「お金」や地域とのつながりを学ぶ体験が実現した。参加者数もおおむね目標を達成し、多世代の交流が生まれた。予定外の成果としては、当初は年2回の実施予定だったが、地域からの反響により年3回開催できた。さらに、地元商店街や高校のイベントにも共同参画する機会を得て、活動の幅が広がった。これにより、子どもたちの活躍の場が増え、地域とのつながりや認知度が高まり、今後の継続的な展開への手応えを得ることができた。</p>
	<p><b>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</b></p> <p>予定した成果があげられた理由は、事前の打ち合わせや準備を丁寧に行い、出店者や協力団体との連携がスムーズだったこと、またSNSやチラシを活用した広報が効果的に機能したためである。一方で、成果があげられなかった部分としては、初参加の出店者へのサポート体制が不十分だったことや、準備期間が短い回でチラシ配布や調整が後手に回り、一部で情報伝達や参加者対応に課題が見られた。今後は準備期間の確保と支援体制の強化が必要である。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続
<p><u>継続して実施する</u>                      ・                      実施しない</p>
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由
<p>本事業では、子どもたちの主体性や表現力が育まれ、地域の大人とのつながりも深まり、大変意義のある取り組みとなった。今後は多世代交流をさらに促進し、地域全体で子どもたちを支える仕組みづくりを進めていきたい。そのためにも本事業を継続し、定期的な実施により地域に定着させていく必要がある。改善点としては、準備期間を十分に設けることで出店者や出演者との調整を円滑にし、初参加者へのサポート体制を強化する。安全面の配慮も引き続き徹底し、安心して参加できるイベント運営を目指す。</p>
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）
<p>中長期的には、子どもたちが地域で活躍する機会を継続的に提供し、地域の人・場所・文化とのつながりを深めることで、東大阪市のまちづくりの一翼を担う存在としての基盤を強化していく。定期的なイベント実施により地域の信頼と認知を高め、学校や企業、自治会との連携を広げることで、地域ぐるみの教育・文化活動へと発展させたい。財政面では、協賛企業の拡充や、地元企業・商店との協力体制をさらに強化し、物品提供や広告協力などの支援を受けられるよう工夫する。また、活動の成果や意義を積極的に発信することで、新たな寄付やクラウドファンディングの可能性も探っていく。将来的には、事業収益や受益者負担の一部導入も視野に入れ、持続可能な運営体制を構築する。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	弥生公園地蔵尊盆踊りこころのふれあい事業		
団体名	弥生公園地蔵尊盆踊り実行委員会		
助成区分	スタート支援部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	187,000円	総事業費	

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	生活が効率良く便利に過ごせる反面、人付き合いが希薄になっている現代において、地域コミュニティ力の低下を顕著に感じています。日常において大きな災害・事故・犯罪は頻繁には起こりませんが、0とは言えません。その時に力を発揮するのは地域コミュニティであるため、その形成の為の足掛かりとして事業を実施したい。			
2. 事業の内容	25年間開催されていなかった「弥生公園盆踊り」の復活を実現し、盆踊りを通じて一体化された空間において老若男女を問わず楽しく体を動かすことで同じ時間を過ごし、同じ空気を感じることで得る『こころのふれあい』や『一体感』をもって世代を超えた交流をはかり、地域コミュニティ形成の足掛かりとする。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	② 実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	②	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	1	2	③
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	実施場所や日時については盆踊りという性質上それ以上でも以下でもないが、25年もの長い期間を置いたことが市民感情的な懐かしさや新鮮さというところに触れたのか、まさしく予想以上に老若男女問わず多くの方に足を運んでいただいた。第一回目にもかかわらず、この催しが大盛況であったのは盆踊りという催しに着眼した事、普段から連携・統率の取れている地元スタッフや協力団体の努力に尽きると思われる。これぞ地域コミュニティの力だと痛感しました。予算については限りあるものであるし、スタートアップ支援というコンセプトの元で最大限活用できたと思うが、この事業に対して目先の事だけでなく実績や事業が持つ影響力・可能性を理解して欲しい。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>まずは、盆踊りの復活が果たせたことが最大の成果です。次に地域コミュニティの向上等に対してすぐに具体的な成果が見れるものではないものであるという認識がある中、まずは人(参画者・参加者)を集めることが何よりも優先したことに対しては大変成果を得られたと思う。最終目標の難易度が高い為、成果が顕著に見えにくいのも想定していましたが、大事なことは継続して活動して、少しずつでも前進いくことだと認識しています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>第一回目なので予定や出来高などは今回の結果を鑑みて長いスパンで立てていきたいと思えます。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<b>7. 次年度の事業継続</b>
継続して実施する
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>
<p>今回は振り返ると人集めに特化していたように思います。今後は集まった人たちとどう関わっていくか、どういう風に参画してもらえるか、つなげていってもらふことを具体的に行動に移していかなければいけないと思う。</p>
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b>
<p>財政的な面でいえば、人(来客)さえ集まれば飲食店を出していけば事足りるかと思えます。まずは、軌道に乗せて自立するまでのもう少しの援助が必要と思えます。あとは、人材(スタッフ)につきましては、質も量もこれは地元の自治会、青年団、および諸団体での昔ながらの地元の関係性を最大限に活用して、代々継続する準備はできています。今年度で良いスタートを切らせてもらいましたので、より現実的に近づいたと思えます。</p>

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	多文化共生社会を私の町にも！やさしい日本語での情報発信と地域交流事業		
団体名	多文化共生サポート「結」		
助成区分	スタート支援部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200,000 円	総事業費	262,976 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市にも外国籍住民が増え続ける中、言葉の壁、文化・習慣の違いにより、地域住民との交流が乏しい。また、生活する上で必要な情報が、多言語では対応しきれず、全ての外国籍住民に速やかに伝わっていない現状もある。まずは言葉の壁を少しでも取り払うツールとして伝わる「やさしい日本語」を普及させ、多文化共生社会を目指す。			
2. 事業の内容	地域住民への『やさしい日本語』セミナー、勉強会（意見交換会）の開催。 地域の外国籍住民に困りごと調査を実施し、『やさしい日本語』でのお役立ち情報の発信。 互いの文化・生活を認め合うための地域交流にも取り組む。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	1	②	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	実施日時は、メンバーの参加人数や施設空き状況により決定しましたが、第2回おしゃべりパークでは、年末・クリスマス時期であった為、集まりが減。次回からは、時期もよく検討します。全2回のワークショップは予想以上の参加人数となり、2回目にはリピータの方や、口コミから参加された方もいました。事業目的の一つ「やさしい日本語」の普及・周知活動が微力ながらできました。 イベント企画・準備から実施までは、初年度の活動にもかかわらず、メンバーや協力団体との連携が取り合えて、段取り良く進行できたと思います。オンライン勉強会では、段取りの点で課題が残るところもあり、手法改善に取り組みます。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>ワークショップや、勉強会で「やさしい日本語」にふれたことで、外国人に会った時には、「やさしい日本語」を使って話かけてみようと思うという声が多く、参加者の意識変化が見受けられました。個人的に参加された方の中には、自分の所属する事業所や学校の研修会に来てくれないかというお声もあがり、多方面で必要性を感じていただけだと思います。今後の活動の後押しになりました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>外国人への聞き取り調査&amp;交流会を開催し、「やさしい日本語」での情報発信につなげていきたいと思っておりますが、情報発信の土台作りまでもいけません。次年度は、紙媒体の形でも、必要とされる情報を提供できるよう挑戦していきます。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



<b>7. 次年度の事業継続</b>
<input checked="" type="radio"/> 継続して実施する      • <input type="radio"/> 実施しない
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>
<p>まだまだ知られていない『やさしい日本語』。まったく知らない方へもその必要性を感じていただけるよう幅広い広報に努めます。</p> <p>次年度からは、防災を共通のテーマにして事業を展開し、役所の危機管理課の方からの助言もいただきながら、最終は、役に立つ防災についてのやさしい日本語版パンフレットを作成する予定です。</p>
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）</b>
<p>今年度は、助成金以外に、ご寄付と、介護施設から依頼を受けた『やさしい日本語』の幹部職員研修会と、外国人職員向け学習会に講師を派遣し、活動資金を得ることができました。次年度も「やさしい日本語」の普及活動兼事業収入となる依頼をいただけるよう、努めていきます。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	コミュニティカフェ		
団体名	E135°		
助成区分	部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	100,000	総事業費	68,085

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市には、人口減少や若者の人口移動が課題とされている現状があります。また、日本では若者の死因は自殺が一番多く、中でも孤独死が問題視されています。この課題を解決するために、「孤独にならないまち、東大阪市」を合言葉に、若者と地域との繋がりが広がる居場所づくりを目指し、コミュニティを形成します。			
2. 事業の内容	コミュニティカフェを開催。参加費のみで、ドリンク・お食事を無償で提供。家でも、職場や学校でもない第3の居場所となるよう、オルデンバーグのサードプレイスの8つの特徴を参考に、居心地の良さにこだわって運営した。開催毎に参加型のワークショップを開催し、世代を超えたコミュニティを形成した。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	1	②	3
	② 実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	1	2	③
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分/不十分だった理由	①後半期の開催のみであったことから2の評価。しかし、開催施設の空調の効き具合から体調を考慮したときに、妥当の時期であった。 ②③居心地の良さを感じる敷居の低い場所と内容で、来場者さんにゆったり楽しく過ごしていただけたため1の評価。 ④⑤⑥幅広い世代の利用があったことや、協力団体から利用者の金銭面を考慮した廃棄食材の提供、毎回の企画の実施などを踏まえ1の評価。 ⑦今回、あえて大々的に広報を行わなかったため3の評価。 ⑧消耗品への事業費が予算を大幅に超えた。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>成果としては、予定していた以上の成果があった来場者数の目標合計 30 人を超える来客があったほか、2 回以上来場して下さる方がいらっしゃるなど、予定外に得られた成果もあった。また、若者を対象にしていたが、高齢者や 40、50 代という大人世代にも十分需要がある内容であるということを感じたことも、団体としては得られた成果である。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>成果が挙げられた理由は主に 2 つあると考えられる。1 つは、金銭面を考慮した事業内容であることだ。「参加費のみ」という価格設定をとることで、敷居が低くなり、リピーターもできた。2 つ目は、利用した施設自体の居心地の良さである。今回利用した「ながせのながや」さんの木でできた内装の雰囲気や、中が見える開放的なドアなど、入りやすく過ごしやすい空間を演出してくれた。</p>

### 6. 活動内容がわかる写真



<b>7. 次年度の事業継続</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 継続して実施する      ・      実施しない
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>
<p>今年度スタートアップとして団体を立ち上げて活動していく中で、コミュニティカフェの必要性を大いに感じた。金銭面や、知人の有無にとらわれず、ありのままの存在で過ごすことのできる空間を継続的に提供するために、この活動の必要性や、東大阪市が抱える問題を周知していくための広報が必要だ。しかし、居心地の良さを提供し続けるためには、過度な広報を避け、秘密基地のような存在であり続ける必要がある。このバランスをとれる広報を心がける。</p>
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）</b>
<p>一番の課題は、参加者から参加費のみの回収で団体を継続的に存続させていくための財政面の政策をたてることである。今期はスタートアップの助成金いただき活動に必要な備品等を揃えることができたが、継続的に会場費等を賄うためにこの活動の必要性を様々な場所で訴えかけていくことで、協力団体や連携団体を募る必要があると考える。また、コミュニティカフェの活動をするにあたり、運搬作業の負担が大きかった。この点に関しても、財政面と深くかかわる点であるため、検討する必要があると感じた。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	まなVIVA! プレーパーク～遊びの中に福祉と防災を～		
団体名	ちいさなて		
助成区分	スタート支援部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	14.8万円	総事業費	368,882円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	令和6年1月1日に起こった能登半島地震を受け、いつ何時自分たちの暮らす地域が自然災害に見舞われるか分からない危機感に襲われました。希薄になる昔ながらの地域の顔見知り、隣近所の安否を気に掛ける繋がりを今こそ再構築すべき時に来ていると感じます。福祉や防災、硬い言葉であるがゆえに関心ごとになりづらいが多くの人が無関心から少しの関心を持つ仕掛けを行い自助共助のまちづくりに常げることがを目的とします。			
2. 事業の内容	子供達が楽しいと感じる遊びを通して、子供の興味関心を拾いながら福祉や防災、多様な価値観に触れるきっかけに繋がるイベントとして東大阪支援学校にてイベントを開催しました。また子ども新聞をツールとして子供達が取材活動を通して福祉や防災について学ぶきっかけになりました。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	② 実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	1	②	3
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	遊防祭は9月に開催できたことで熱中症等に配慮できました。イベントでは、支援学校での開催協力をいただけたことで障がいを持つ子供達が安全に配慮しながら様々な遊びから防災を学び体験することが出来ました。イベントの実行委員は『地域と福祉をつなぐ』必要性に理解を示す子育てママがチームとなり行ったので、横の繋がりを意見交換、根拠など共通認識の中各イベントを行うことが出来ました。子ども新聞も4回発行出来様々な地域福祉に関わる専門機関と関わりが取れたが、人の手から手へ配り顔見知りを作るという部分はこのご時世なかなかハードルがたかく実施が難しかった。			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>支援学校での開催を行ったことで、東大阪支援学校が福祉避難所だということが分かったことが一番の成果だと思います。イベントや子ども新聞ではゲーム性を持たせた防災ワークショップや防災グッズの体験など遊びの中から子供達が地域課題に触れていくのはもちろん、その子供の様子を見て大人が学び、考えるきっかけになりました。『遊び』『楽しい』を仕掛けていくことで、多くの人になかなか関心ごとになりづらい地域課題について知り理解を深めたと感じます。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>助成金を活用したイベントにできたことで行政の各部局が協力下さり、防災について深く話をする機会が作れたことが成果につながったと思います。</p> <p>子ども新聞は高齢者の安否確認に繋がるツールになると思うが第三者がインターホン押して新聞を手渡しするというのはこのご時世ではハードルが高かった。</p>

### 6. 活動内容がわかる写真



<b>7. 次年度の事業継続</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続して実施する	・ <input type="checkbox"/> 実施しない
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>	
<p>次年度も引き続き、『地域と福祉をつなぐ、無関心を少しの関心に』をテーマに防災や福祉を盛り込んだ企画を子供達が遊びを通して学び、その子供の姿から大人が学び、理解に繋げるきっかけ作りを継続していきます。次年度はこのそれぞれの活動を『子ども新聞』という形で紙媒体として作成し、公的な施設や福祉機関、地域の人との出入りがある場所、在宅高齢者へ地域の福祉や防災、子ども食堂の情報を届け、ワークショップ～紙媒体～地域へ情報循環までの一連の流れを自走できる事業として続けていきます。</p>	
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）</b>	
<p>事業の継続に向けて子ども新聞にスポンサーを募り、作成印刷費用、配布してくれる子供含めた地域の方に1枚当たりの単価を乗せ協力者の継続的なサポート体制を仕組化したいと思います。また子ども食堂の実施者や実施場所と連携をとることで情報難民の高齢者や支援を本当に求めている親子に子ども食堂の情報を届けることが出来るよう仕組みも整えていきたいと考えます。</p>	

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	アクティブラーニング推進事業		
団体名	知育&子育てサロン Sotto.		
助成区分	スタート支援部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	200.000	総事業費	242.352

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>加納地域では、子どもを安心して遊ばせる場が少なく、保護者は孤独感や不安感を抱えながら子育てをしています。Sottoでは、保護者がリフレッシュできるワークショップや、子育てを気軽に相談できる場を提供し、保護者どうしの繋がりを作ります。これにより、子どもをのびのびと遊ばせられる環境を提供し、子育てへの前向きな取り組みを支援します。</p>			
2. 事業の内容	<p>保護者が趣味やコミュニティを見つけられるワークショップや子育て講座、子育て相談を実施します。イベント中はスタッフが保護者と一緒に子どもを見守るため、保護者は安心して参加できます。また、親子で学べる英語や食育などのイベントや、保護者どうしの交流イベントを通じて、地域と子育て世代を繋げる場を提供し、地域と一緒に子育てを支援する環境を整えます。</p>			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	1	②	3
	② 実施場所はよかったか	①	2	3
	③ プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	②	3
	④ 受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	2	③
	⑤ 実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥ 企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦ 広報はよかったか	1	2	③
	⑧ 予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	<p>本事業は、適切な実施時期や場所で行い、参加者からも好評を得ました。プログラム内容は柔軟に対応し成果を挙げましたが、参加人数の課題が残り改善が必要です。一方で、連携体制の強化や協力者の増加がありました。企画準備は丁寧に進められましたが、実施方法には改善の余地があり、次年度の課題です。予算は柔軟な調整により問題なく運営できました。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>本事業では、加納地域に密着した取り組みにより、孤独に子育てをしている世帯が来場するきっかけを作り、喜ばれる場を提供できたことが大きな成果です。また、予定外の成果として、子育て支援に携わる他事業者との連携が広がり、コラボイベントを通じて来場者に良い影響を与えられました。さらに、知育遊びやアートイベントなど、本事業でしか体験できない活動が評価され、保護者や子どもたちから喜びの声をいただいた点も成果の一つです。</p>
	<p>予定した成果が挙げられた理由は、加納地域で活動している方々と積極的に繋がりを持ち、地域内での効果的な宣伝ができたことにあります。この連携により、地域に密着した情報発信が可能となり、孤独感を抱える子育て世帯に本事業の存在を届けることができました。また、地域の特徴やニーズに合った内容を提供できたことが、多くの保護者に共感を生み、来場のきっかけとなったと考えられます。</p>

### 6. 活動内容がわかる写真



### 7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

### 8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

次年度も引き続き、加納地域を中心に活動を展開し、より多くの方々に事業を届けられるよう工夫を重ねていきたいと考えています。本年度は周知不足により来場者が少ないイベントもあったため、SNSに加え、チラシ配布や周辺施設での掲示、地域でのマルシェ出店など、より積極的で多角的な広報活動を進めていく予定です。この取り組みにより、地域の皆さまに本事業の魅力を効果的に伝え、さらなる参加促進を目指します。

### 9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）

中長期的には、地域との連携をさらに強化し、継続的な事業運営を目指します。また、本事業でしか経験できないアートイベントなどをもっと充実させていき、来場者を増加させていきたいです。また、SNSやマルシェを通じて事業の価値を広く発信し、リピーターの増加や新規参加者を獲得していきたいと考えます。これにより、自立的な運営体制の確立を目指していきます。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ゆうてみて		
団体名	ゆうてみて		
助成区分	部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	195,000円	総事業費	80,970円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	コロナからリモートが増え、人と会うことや直接話すことがしづらくなり、ひきこもりになったり体調を崩してしまったりと負の悪循環が起きてしまう生きづらい世の中でその状況の改善になればと、人と会う、人と話す場所を作る。			
2. 事業の内容	毎週1回お店を貸し切り、誰でもが参加できる居場所作りを開催。お店にチラシを置いてもらったりInstagramなどを活用したりと、遠い地域の方も知ってくださり参加。リピーター様も増え、人と会う話すことで繋がりができ、拡大することができた。			
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	1	②	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	2	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	①	2	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	①	2	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	2	3
	⑦広報はよかったか	①	2	3
	⑧予算は妥当だったか	①	2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	<p>お店で毎週1回他の施設も月2回実施し、定着することで「行けば話せる」「行けば人と会える」「行けば気持ちが軽くなる」等の思いで参加してくださる方が増え、続けてきて本当に良かったと実感しています。</p> <p>不十分だった点は、放出リレーションスペースが分かりにくいという声があり、次回から検討します。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>予定していた以上にたくさんの方の参加があり、お店も満席になる日もありました。インスタグラムのフォロワーさんも、200人近くフォローしていただき、観覧数は600回、かなりの人が見てくださっていることに驚きです。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>インスタグラムで毎回お知らせをアップしていたことや、傾聴の雰囲気、写真、動画もアップしたので、それが分かりやすく良かったと思います。</p> <p>チラシも作成し、色々なお店に貼って頂いたのも効果があったと思います。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



**7. 次年度の事業継続**

継続して実施する

・  実施しない

**8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由**

手続き内容が複雑。  
 パソコンを持っていないので入力難しい。  
 助成金無しでも運営できる基盤づくりができた為。

**9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)**

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

## 令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	トライアルしやすい商店街プロジェクト		
団体名	弥刀もりあげ隊		
助成区分	スタート支援 部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	137,561円	総事業費	187,311円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金岡本通商店街エリアは空店舗・空き家・高齢化が課題であり外国人が増加傾向</li> <li>・大学をはじめ各主体の強みや資源を発掘連携できる可能性が高い（既存組織が活発）</li> <li>・一般的にチャレンジできる場所が少ない、新たなプレイヤーの発掘も必要</li> </ul>			
2. 事業の内容	<p>「弥刀もりあげ隊会議、半額市・100 えん笑店街<sup>1</sup>」：毎月第1土曜日（共同開催） →会議内にて商店街にある空店舗の活用方法の検討</p> <p>「弥刀癒しフェスタ」偶数月第1土曜日 ※上記<sup>1</sup>と共同開催</p> <p>「弥刀れる市」：6月、10月、2月開催→軒先で使用する屋台4基の作成</p> <p>「地蔵盆祭り」：8月開催</p> <p>学生と商店街を繋ぐ新たなモビリティ活用のための整備、地域コミュニティネットワークの「見える化」</p>			
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	①	2	3
	②実施場所はよかったか	①	2	3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	1	②	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	1	②	3
1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	1	②	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3
	⑦広報はよかったか	1	2	③
	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	<p>弥刀れる市の開催場所は、弥刀駅に近い、金岡商店街での開催だったため、少し離れたところから来てくださったお客様もいらしたため、十分。</p> <p>弥刀れる市で得たアンケート結果で、子供たちの居場所が少ないという意見があり、弥刀れる市では子供の比率が最も多く、子供たちが楽しんでくれる様子が多く見れたため、開催時期も十分。</p> <p>今年度は、インスタグラムの活用が少なすぎたため、広報は不十分。だが学校にチラシの配布は続けて行う。予算は妥当だったが、もう少し削れるとも感じた。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>弥刀れる市で、行ったアンケートでは快く回答してくださる方が多く、地域の方の意見を沢山聞くことが出来ました。</p> <p>予定外に得られた成果は、弥刀れる市の開催日が大寒波でしたが、150人近くの方が来客してくださり、盛り上がりを見せたことです。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>成果が挙げられた点としては、一昨年から定期的で開催されている弥刀れる市は、今となっては地域の方に根付く一つの文化になりつつあるからだと主催者として感じました。</p>

**6. 活動内容がわかる写真**



**7. 次年度の事業継続**

継続して実施する      •       実施しない

**8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由**

継続して事業は実施いたします。ただ次年度は助成金をいれず、当団体のみで運営していくと団体での話の中で決定となりました。そこで、本年度を振り返るとこれまでのイベント運営や会議、それに加えて空き家再生の検討が加わることで忙しさが増しました。そのため、新たな体制を整え団体内で役割を分けることで次年度以降の活動が効率良くなるようにしたいと思います。また、引き継ぎの際には行うタイミングが少し悪くぐだぐだしてしまったことがあるので、イベントの日程など引継ぎしやすいように計画数工夫をしたいと考えています。

**9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）**

今後事業を継続していくためにはイベントにおける出店者の増加と、学生による出店で地域と学生をイベントでつなぐことで集客と出展料で賄っていきたいと考えている。さらに空き家の検討では空き家のオーナーさんから空き家の活用によって家賃の相談などを受けていただけるとのことです。そのため次年度以降は空き家の活用でも利益を得られる計画を現段階から考えているところです。さらに地域の他団体との連携を行い、弥刀もりあげ隊の活動を知ってもらうことも今後の活動を視野に入れて動き出す予定です。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子どもの居場所づくり～孤育てを防ぎ地域と繋ぐ～		
団体名	やどり木		
助成区分	事業チャンレジ部門 ( <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	425,000	総事業費	

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>“地域”が家庭と学校以外の第3の居場所として、長期休みに子ども居場所づくりを開催することで、学年や校区を超えた異年齢交流の場を設ける。</p> <p>そして、活動を知ってもらうきっかけとして、交流会や講座やリユース会を開催し、孤独な子育てを防ぎ、人と街とのつながりをつくる。</p>			
2. 事業の内容	<p>小中学生の居場所作りの活動では、保護者の負担の軽減を行うために、希望者には食育講座を開催し、お昼ご飯（給食）の調理や配膳をこどもたちも一緒に行なう。また、今年度は、東地区のみに限らず、他の地区での活動を広げるために、ママスタッフの人材育成も行う。</p>			
3. 事業評価	①実施時期（日時）はよかったか	①	・ 2	・ 3
	②実施場所はよかったか	①	・ 2	・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	①	・ 2	・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画 通りの参加人数があったか	1	・ 2	・ ③
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	1	・ ②	・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	①	・ 2	・ 3
	⑦広報はよかったか	1	・ ②	・ 3
	⑧予算は妥当だったか	1	・ 2	・ ③
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	<p>どの活動もリピーターがとて増えた点は良かったと言える。しかし、石切回廊でのイベントを除く、ほかの活動では、新規利用者が今年度はあまり増えなかった。新規の方に対しては広報が足りなかったのもう少し、周知活動にも力を入れたい。</p> <p>また、参加人数と予算が妥当ではなかった点に関しては、部屋代と人件費の部分が大きく上回ったことが原因だと考えられる。特に、育児講座での新規集客がすこぶる悪かったため、参加人数が予定より少なく、結果的には参加費との収支のバランスが良くなかったと考えられる。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>子どもの居場所づくりは、今年も保護者の昼食の負担を減らすために、給食を用意したことで、連日、たくさんの参加があった。昨年度も給食は実施していることから、今年度は、率先して配膳を手伝ったり、後片付けをしたりと、こどもたちから積極的に取り組む姿が多く見られた。やはり、こどもたちにとっては経験を重ねることの重要性を感じた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>子どもの居場所づくりで成果がでた理由は、しっかりとリピーターさんができてきているためだと考えられる。</p> <p>また、育児講座の新規参加者があまり増えなかった理由としては、今年度は、ママチャレンジ事業として取り組んだため、集客を育成中のママに概ね任せた。そのため、やはりそれぞれのママの熱量に違いから、集客数に差が生じたと考えられる。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続

継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由

新規参加者を増やすためにも、情報を求めている保護者や地域の方の助けになれるよう、育児講座やあいおと会などは継続する。また、未就学児のときの出会いが、活動のリピーターとなることが過去の4年間の活動で明確になったため、幼少期の出会いも大切にしていきたい。そして、親と子だけでなく、地域の学生などにも協力を依頼し、夏休みなど居場所づくりの宿題や遊びのサポートもしていきたい。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)

東大阪市にあまり見られない小中学生の居場所づくりに目を向けることで、学校や家庭以外の地域にこどもが集う場所ができると考えられる。それによって、子どもや保護者、地域と繋がり合うことで、生活をする上での安心感が生まれると期待される。そして、困ったときに相談することや、頼ることのハードルをさげ、孤独に子育てを行うことを地域全体で防げると考えられる。

石切回廊や四条市民プラザでのイベントに、子どもの遊びコーナーとして、やどり木価格（ひと家族100円）で実施したり、ママのためのブースを新しく設けることで、収入源を確保します。また、リユース回会である「ぐるぐる会」は、ドネーション制にしていますが、抵抗がある方が多いため、1枚100円程度の安価にして、開催することで、こちら活動資金にしたいと考えている。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和6年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	体験・対話・研修で考える東大阪市の多文化社会 — 共に学び、共に暮らす地域社会をつくる —		
団体名	特定非営利活動法人多言語・多文化サポート ICHI		
助成区分	部門 ( <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 )		
助成金額	325,000 円	総事業費	325000 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域住民が日本語教育や言語・生活支援の重要性への理解を深め、対話や体験的な学びにより異なる言語的文化的背景を持つ人々の視点も獲得しながら、多文化社会に暮らす当事者として地域に必要な支援を提供したり、活動に関わったりできる環境をつくる。さらに、母語・母文化に関係なく一人一人の専門性や経験を踏まえた潜在的な力を発掘しながら活躍できる社会づくりをめざす。		
2. 事業の内容	地域住民が共に暮らす多文化社会をつくるため、多言語多文化に触れる体験、異なる言語的文化的背景を持つ方々との対話、日本語支援や生活情報に関する研修や交流イベントを通して必要な支援を知り、交流や異文化理解を促進する。対象にこれからの地域の担い手となる子どもも含め、多言語・多文化への理解を育む。		
3. 事業評価  1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	① 実施時期（日時）はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	② 実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	⑦広報はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2 ・ 3
	⑧予算は妥当だったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2 ・ 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 十分にできた理由 不十分だった理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを対象としたイベントでは、予想以上の人数の参加者があった。多くの参加者に対応できる会場を確保することができた。</li> <li>・研修会では、参加者同士が自身が地域でできることを考え、活動への参加を考える機会を提供することができた。</li> <li>・研修会・勉強会の開催により地域日本語支援の必要性を周知することができた。</li> <li>・外国人住民向けのセミナーの開催により生活情報を届けることができた。</li> </ul>		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

<b>5. 事業成果</b>	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>1) 研修会・勉強会の開催により、①地域日本語支援の必要性を周知し、②参加者同士が対話する時間を通じて多様な言語的・文化的背景を持つ人々が相互理解を深め、③参加者同士ができることを考え、活動への参加を考える機会の提供④子どものための日本語支援者を育成することができた。</p> <p>2) 外国人住民向けのセミナーの開催により生活情報を届けることができた。さらに、外国人住民の話から他の困りごとを知る機会ともなった。</p> <p>3) 多言語多文化理解/交流イベントの開催により、母語が異なる人と関わったことがない参加者が関わりを持つきっかけとなった。</p> <p>4) 子どもも対象としたイベントの実施により、地域住民の多言語・多文化への理解が深まる一助となった。また、それぞれのイベントに外国人住民が発信者側として参加することで地域の一員としての活躍の場を提供することができた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントでは大勢のサポーターによる準備段階からの協力により、円滑な進行ができ参加者の満足度の向上に寄与した。</li> <li>・ 周知不足のため参加者が少なかった研修会があり、集客方法に改善の必要があった。</li> </ul>

### 6. 活動内容がわかる写真



写真①



<b>7. 次年度の事業継続</b>	
<u>継続して実施する</u>	・ 実施しない
<b>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由</b>	
<p>事業の参加者を広げて、活動の協力者へのアプローチを積極的に行いたい。</p> <p>単発型イベントの周知期間を長く設け、参加者増に尽力したい。そのために計画をスピーディーに進行させ、余力を持った広報活動ができるような工夫を行う。</p>	
<b>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (事業を継続する場合のみ)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セミナー参加料の徴収を行い、継続的に活動できる資金を獲得する。</li> <li>・ 各イベントの前後に団体案内紹介も引き続き行い、イベント参加者へ正会員やサポーター、サポート会員への勧誘も行う。</li> <li>・ 教育機関や日本語教育関係者へ呼びかけ、それぞれの教育現場の状況や専門知識を共有しながら、多文化理解を深めるとともに課題を探り、解決を図る。</li> <li>・ 東大阪市近隣に留まらず、多くの団体や個人へアプローチを行う。</li> <li>・ 他団体からの依頼にも対応できる体制づくりを行う。</li> </ul>	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。